

第3学年「てつがく」学習活動案

授業者 森 壽彦

2月20日（金） 3階D室 9:00～9:40

1 題材名 今を見つめて～「ふつうって何？」～

2 題材について

3年生では、2年生までの経験を生かしながら「てつがく」の授業が始まる。低学年では、サークル対話を中心に自分の経験や考えを語ったり、友達の話の聴いて質問し合ったりできる安心して聴き合う空間を大切にしてきた。3年生においても朝の時間のサークル対話を1学期から継続して行い、聴き合うことや質問し合うことを通して共通の話題について楽しみ合える関係づくりを意識してきた。

てつがくの始まりは、「今、気になっていること」をもとに話し合い、1学期は「困るって何？」と題材を決めた。題材をもとに問いが生まれ、それぞれの経験を話し合った。「うれしくて困るってどんなこと？」や「困るにかかわるときってどんなとき？」と問いがつながり、対話を重ねることで他者を知ることの楽しさを感じ始めていた。2学期も同様に「今、気になっていること」をもとに話し合い、題材を決めた。普段ことばにしている「本当」ということに着目して「本当って何？」が題材となった。題材をもとに問いを見つけ、対話を重ねる過程で子どもたちは、問いについて考えを深めるために「個で考える時間」と「みんなでわかちあう時間」を設ける必要があると考えた。また、「みんなでわかちあう時間」の後にふり返ることで他者とかかわりながら、自分がよりよく変容したと自覚すること、自分の中で変化しないことに気づき、自分を知ることを意識してきた。「本当」について考える中で子どもたちは、その対極にある「嘘」に目を向け、他者の考えをもとに自身の経験を見つめ直すことにつながった。1学期に対話をする意味を考え、他者とかかわりについて考えた子どもたちは、2学期何のためにふり返るのか自己の見つめ方について考えることとなった。加えて問いについて対話することで自身の考えがどのように変容していくのかを自覚するふり返りのあり方も考え合えた。

本単元の題材は「ふつうって何？」に決まった。様々な授業でのわかちあいで「ふつう」ということばが聞こえてくる。子どもたちは、「ふつう」を共通認識で使っているが、一人ひとりが想像していることに違いがあるようだった。「ふつうって何だろう？」の題材に目を向けることで子どもたちには他者とかかわり方と自己のあり方について考えてほしい。例えば「ふつうってだれが決めるの？」という問いであれば、他者との考えの違いに気づける多様な思考の場となり相手への寄り添い方を考える機会となるだろう。また、「ふつうじゃだめなの？」という問いであれば、他者との認識の違いを寛容し、自分の考え方を見つめ直すことにつながるだろう。「ふつうって何？」という題材をもとに他者とかかわりと自己とかかわりについて行き来しながら3年生の今を見つめ直せるようにしたい。

3 学習活動計画（8時間目／全10時間）

- (1) 「今、考えていること」について対話し、題材を決める…1時間
- (2) 題材をもとに「問い」を見つけ、対話を重ねる …本時6/8時間
- (3) 題材について対話をふり返り、考えをまとめる …1時間

4 本時の活動について

(1) 本時のねらい

- ・「問い」について対話を通して、自身の考えをふり返る。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 見つけた「問い」について話し合う。	・前時までにそれぞれ考えをもつ。 ・サークルの形になって対話する。 ・聴くことを意識して対話に参加する。 ・子どもたち一人ひとりの経験をもとに考えを話し合えるようにしたい。 ・必要に応じて以下のことを行う。 問い返すことにより、その意味を明確化する。 対話してきた内容の整理や確認を行う。
2. 対話をもとに「問い」についてふり返る。	・対話したことをもとに問いについて一人ひとり考え直せるようにする。